

ななかまど

NANAKAMADO

Hokkaido Information University Magazine

Volume 86

Published on September 20, 2026



Evolve

特集

進化する大学、進化する学び。



Sustainability & Well-being

持続可能な社会の実現に挑戦する 「情報イノベーター」を育てる。

2027年4月

情報理工学科 誕生

現在、生成AIをはじめとする情報技術は、人間の知的活動そのものを代替し得るほどの進化を遂げ、社会は大きな転換期を迎えています。これまで「情報」は社会を効率化するための便利な道具（ツール）に過ぎなかったかもしれませんが、これからの不確実な時代において、情報は地球規模の課題を解決し、人々のウェルビーイングを支える「基盤」になると確信しています。

だからこそ求められるのは、単に技術を使いこなす知識だけではなく、自ら問いを立て、異なる背景を持つ人たちと対話し、技術を「いかに人間や社会のために役立てるか」を考える、実践的な問題解決力と高い倫理観です。北海道情報大学が目指すのは、社会の課題に共感し、情報技術を用いて新たな価値を創り出せる「生きるための知恵」を持った人材の育成です。

その想いを形にしたのが情報理工学科です。この学科に込めた最大の想いは、持続可能な社会の実現に挑戦する「情報イノベーター（情報の革新者）」を育てることです。情報技術を手にしながらも、常に人間と地球への深い洞察を持ち、技術の進歩を社会のウェルビーイングへと還元できる、温かな血の通った革新者たちを、この北海道の地から世界へと羽ばたかせたい、その願いが、この学科の起点となっています。

情報理工学科 学びの領域

DX 社会 生命と環境をつなぐ「仕組み」

デジタル トランスフォーメーション

AIやIoT、データサイエンスなどのさまざまなデジタル技術を活用し、企業活動や社会の仕組み、わたしたちの生活そのものを根本的に変え、より便利で豊かな未来を築いていくこと。

社会
課題

経済低迷 / 消滅可能性都市
少子高齢化 / インフラ老朽化
オーバーツーリズムなど

GX 環境 生命の「基礎」

グリーン トランスフォーメーション

DXを基盤に、地球環境との調和を図りながら経済や産業の仕組みを持続可能な形へ変革していく取り組みのこと。

社会
課題

地球温暖化 / 気象変動
食料問題 / 資源枯渇
海洋汚染など

HX 生命 社会の「主体」

ヘルスケア トランスフォーメーション

DXを基盤に、医療・診療・治療の高度化や病気予防、生活の質向上などを通じて、健康増進を実現すること。

社会
課題

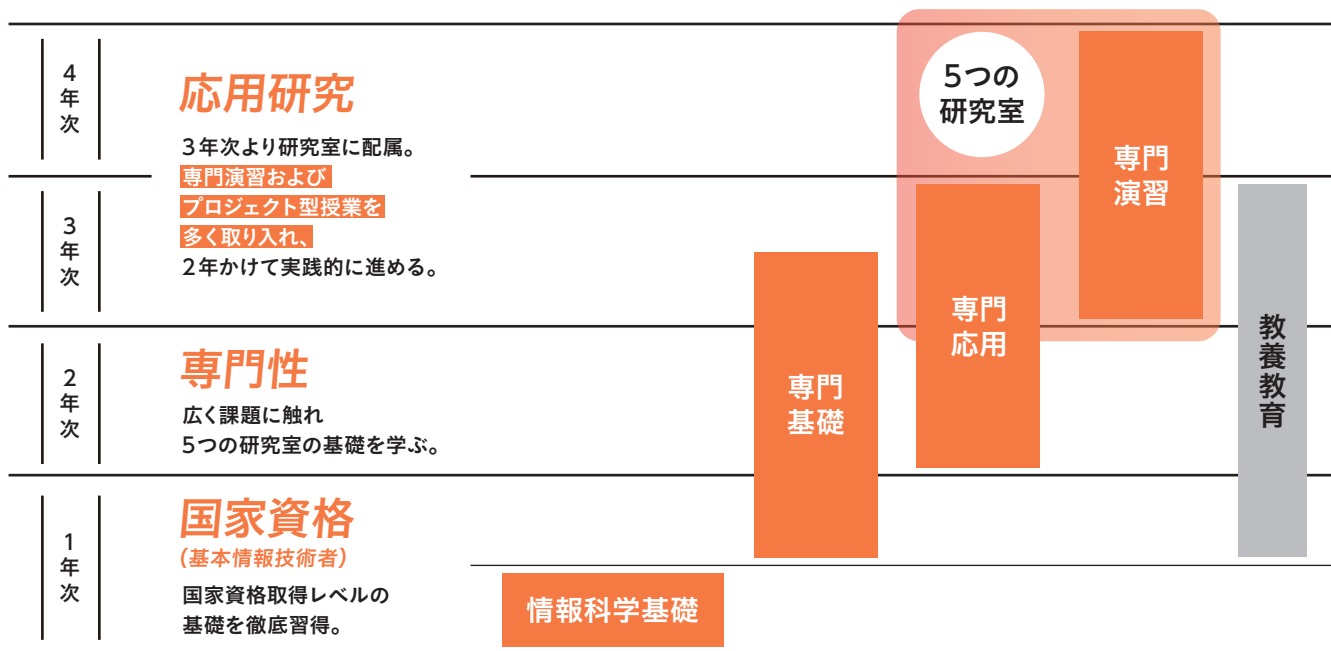
医療費高騰 / セルフヘルスケア
メンタルヘルス / 健康格差など

情報理工学科の特徴

情報理工学科のカリキュラムは、学生が4年間を通じて「理論」を学び、それをすぐに「実践」へ結び付けられるよう、設計されています。

「できる」を増やし、「やりたい」を見つける。

最大の特徴は4年間の学びの進め方。



活躍の舞台は、IT業界だけではありません。

どんな将来にも必要な力「情報」

業界を超えた多彩な就職先が拓ける

ビジネスを創る・変える

- ・起業家
- ・経営コンサルタント
- ・ビジネス情報アナリスト
- ・マネジメントサイエンス

IT・AIで社会を支える

- ・IT企業
- ・AI・テクノロジー関連職
- ・宇宙関連企業
(衛星データ解析など)
- ・製造・開発関連職

データで未来を読み解く

- ・データサイエンティスト
- ・企業のデジタル戦略担当
- ・DX・GX・HX推進担当

環境・社会を守る

- ・環境・防災コンサルタント
- ・土木・建設コンサルタント
- ・公務員
(自治体・官公庁など)
- ・デジタルヘルス関連企業
- ・食・健康関連企業

研究・専門分野を究める

- ・進学(大学院修士課程)
- ・公的研究機関
(気象・防災・地球環境・食・健康)

情報理工学科の採用需要

ありがたいことに、情報理工学科には産業界や地域社会から大きな期待が寄せられています。あらゆる企業や自治体でDXが求められる現在、本当に必要とされているのは、単にプログラムを書けるプログラマーではありません。ITの専門知識を持ちながら、同時に環境問題(GX)や健康・福祉(HX)といった実社会の多様な課題を深く理解し、具体的な解決策をデザインできる人材です。

情報理工学科の学びは、まさにこうした社会の切実なニーズに直結しています。IT企業はもとより、コンサルティング 医療・福祉、スマート農業をはじめとする一次産業、一般企業のDX戦略担当など、その活躍のフィールドは無限に広がっています。

採用需要 8.9 倍の
圧倒的 社会 ニーズ

求人倍率
8.9 倍

定員
80 名

710 名
企業採用意向
(延べ人数)

本学独自調査：「新学科設置計画に係るニーズ調査報告書・採用需要分析」
2025年9月12日～2025年10月3日実施／道内123事業所／道外163事業所 回答

確かな土台と早期の成功体験が学びの可能性を広げる

1年次に、情報の基礎に加え、数理・データサイエンスやAIなどの基本を徹底的に固め、ITエンジニアとしての国家資格「基本情報技術者試験」取得を支援します

一般的な大学では低年次は教養科目が中心となりますが、専門分野に多く触れられることで、入学時の興味や意欲をそのまま学びにつなげることができます。さらに、1年次から国家資格レベルの知識を土台として身に付けることで、早い段階で「できる」という自信を育みます。その自信が、新しいことに挑戦する力となり、自分の「やりたい」を見つけるきっかけになると考えています。

「やりたい」を深める研究室

情報理工学科には5つの研究室があります 学生が多様な視点から研究を進められる体制を整えています

学生一人ひとりの興味や関心はさまざまです。だからこそ、一つの研究室を複数の教員が担当し、多角的な視点や発想に触れながら学びを進める体制を整えました。入学時にやりたいことが決まっていなくても、自分の「やってみたい」を深め、自分らしい専門性を育ててほしいと考えています。異なる専門分野を持つ教員から学ぶことで、新しいアイデアや技術の創出にもつながります。

最先端分野で 社会課題に挑む研究室

最先端分野を探究する5つの研究室は、あらゆる角度から社会課題に挑む場です。『なぜ?』という学生の好奇心を満たしながら、社会に新しい価値を生み出します。

なぜ?不思議? → 解決するのは…



なぜ?不思議? → 解決するのは…



なぜ?不思議? → 解決するのは…



なぜ?不思議? → 解決するのは…



なぜ?不思議? → 解決するのは…

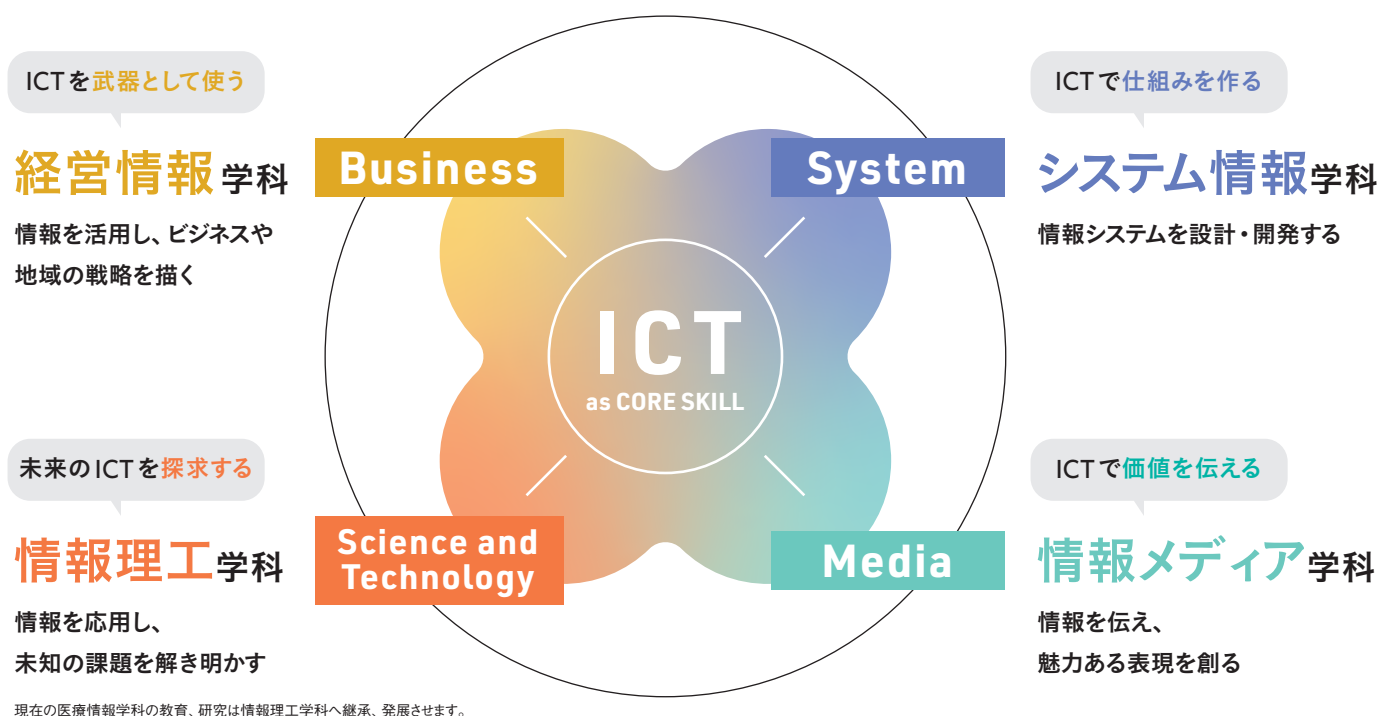


学んだ知識を、社会で使える力へ

カリキュラムの約半数を演習科目が占め、PBL (プロジェクト学習) やフィールドワークを通して、学んだ知識を社会課題の解決へ結び付ける力を養います

知識は、社会の中で使って初めて力になります。教室の中だけでは得られない「社会のリアルな手触り」を感じながら、自ら考え、仲間と試行錯誤し、解決策を導き出す。その経験が、生涯にわたって課題を発見し、解決し続ける力につながると考えています。

4学科体制で、情報から未来を創る。



情報で未来を切り拓く大学へ

北海道情報大学が描く新しい学び

情報理工学科が新たに加わることで、本学は「情報」をコア(核)とした4学科体制へと生まれ変わります。これは単に学科が増えるという組織上の変化にとどまりません。「情報」という共通の言語を持ちながら、ビジネス、システム、メディア、そして今回新たに加わる、生命や環境を対象とした理工学が交差することで、学生たちの知的探求心は、これまでにない広がりを見せます。多様な専門分野を持つ教員たちが、その知恵を結集して行う共同研究やクロスオーバーな講義は、本学ならではの圧倒的な強みとなります。

北海道情報大学が目指す未来。それは、激動する世界において常に先頭を走り、自らをアップデートし続ける「変革のハブ(中心地)」です。学生、教職員、そして地域や企業がこのキャンパスで混ざり合い、新たな化学反応を起こす。不確実な未来を憂うのではなく、自らの手で未来を好転させていく知性と勇気を培う場であり、時代のその先を見つめ、技術と人間性を高度に融合させた真の教育を追求し続ける大学、それこそが北海道情報大学の未来であり、私たちが目指すべき姿です。

特設サイトで もっと情報理工学科を知る！

研究室紹介や教員インタビュー、学長メッセージなど、情報理工学科の魅力を詳しく紹介！



奨学金制度をチェック

北海道情報大学では、充実した奨学金制度を用意しています。情報理工学科限定の新しい奨学金もスタートしました。



オープンキャンパスに参加し 「情報」の学びを体験しよう

どんな将来にも必要な「情報」の学びをオープンキャンパスで体験し、未来の選択肢を広げよう！



学長の想いをもっと読む

前々号「ななかまど」では学長就任インタビューを掲載しています。



新任教員って どんな人たち？

新しく着任された先生たちに、今までの経歴やプライベート、趣味などを伺ってみました。



SANO Kazuya

情報メディア学部 情報メディア学科

講師 佐野 和哉

研究分野 メディア・アート
メディア・コミュニケーション
リサーチベースドアート
アートベースドリサーチ

アートとテクノロジー、メディアとコミュニケーションの研究をしています。新しいテクノロジーによって生まれる表現と、社会との関係や社会に生まれる・起こすことのできる変化を、制作の実践を通して研究しています。

制作、運動、読書、スポーツ観戦、旅行、ゲームなど、夫婦ともにやりたいことが本当にたくさんあるんですが、子どもが生まれてからライフスタイルが変わりました。妻と交代で子どもと遊ぶなど支え合いながら楽しく子育てしています。

2歳の長男を連れてコンサドレの試合を見に行きました。最初はドームが怖かったらしく泣いていましたが、帰るころにはドーレくんが気になっていたようです。

子どもと遊ぶ時間は、普段自分が興味を持たないものに触れられ、いろいろな発見があります。先日はロイズカカオ&チョコレートタウンに行ったのですが、テクノロジーを使った表現がしっかり使用されていて、とても勉強になりました。



ロイズカカオ&チョコレートタウンを
かけまわる長男



SEINO Kazuhiro

総合情報学部 経営情報学科

講師 清野 和宏

研究分野 経営情報システム

北海道情報大学卒業後、昨年まで複数の企業に勤務してまいりました。

研究では顧客満足度分析や意思決定支援などを専門としており、講義では企業へのコンサルティングを通じて得た知見をもとに、情報システムが企業内でどのように活用されているかも加えてお伝えしています。

休日はツーリングやキャンプ、旅行を楽しんでいます。バイクが昔から好きで、これまでに北海道を一周したこともあります。知らない土地を自分のペースで走り、その土地の空気や景色を肌で感じるのが醍醐味です。走った先でテントを張り、焚き火を眺めながら一日を振り返る時間も、私にとって大切なひとときです。

旅行は国内・海外問わず好きですが、最近は家族で道内を旅行することが多くなりました。車中泊やキャンプをしながら気になる場所をゆっくり巡るのがお気に入り、天候や気分に合わせて予定を柔軟に変えながら、その時々景色や出会いを楽しんでいます。ツーリングも家族旅行も、「今しかない瞬間」を味わえるところが共通の魅力だと感じています。



北海道一周ツーリング中に訪れた
宗谷岬と愛車のRZR250R



YANAGIDA Takuto

総合情報学部 システム情報学科

准教授 柳田 拓人

研究分野 人工知能(≠生成AI)
ヒューマンコンピューター
インタラクション
サイエンスコミュニケーション

大学ではユーザインタフェースや人工知能について研究。企業では、プログラミング教室や大学・研究機関の広報にも携わりました。これらの経験を生かして、わかりやすく楽しい教育につなげたいと考えています。

学生時代はスーパカレー、札幌を離れてからはつけ麺にはまり、さまざまな店を食べ歩きました。それが落ち着くと、今度はアマチュア演劇に興味を持ち、自分でも劇団に入るなどしました。その後、多様なボードゲームの存在を知り、夢中になりました。今も、新作の情報収集は欠かせません。

このように趣味は移り変わりましたが、ずっと続いているのは、プログラミングで何かを作ることです。この楽しさを、学生にも伝えていきたいです。

振り返ると、ユーザインタフェースでは「使いやすさ」、プログラミングでは「わかりやすさ」、ボードゲームでは「楽しさ」に関心を持ちました。一見ばらばらですが、どれも「なぜ人はそう感じるのか」という疑問でつながっているように思います。



気づくと増殖している
ボードゲームのコレクション

北海道情報大学 Esports 体育祭 開催

2026.6.19-20



年々進化する体育祭！

2026年6月19日(金)と20日(土)の2日間、毎年恒例の体育祭が開催されました。

近年はスポーツ競技だけではなく、観戦に来た学生も楽しめるような企画を用意。今年は新たな試みとして綿あめづくり体験とeスポーツ部門を立ち上げました。

競技に参加した人も、観戦のみの人でも、大いにイベントを楽しんでいました。

今年はタイから留学中の学生3名も遊びに来てくれ、日本人学生たちにとってはちょっとした国際交流イベントにもなったようです。

2日目終了後には競技参加者向けの交流会が催され、今年は3種のパキスタンカレーと焼きたてナンを食べながら親睦を深めました。

2日間併せて300名以上の学生、教職員が共に汗を流し、交流するイベントになりました。





Wind Ensemble



Soft Volleyball



Softball



Curry



Bocce



Table Tennis

HIU

SPORTS

FESTIVAL

Yosakoiソーランサークルの学生たち

第35回YOSAKOIソーラン祭りが6月10日(水)～14日(日)、札幌市内の各会場で開かれ、伝統チームの「江別まっことええ&北海道情報大学」が32回目の出場を果たしました。今年はYOSAKOIソーランサークルに所属する学生メンバーが増え、若い力を加えて進化するチームを一層元気づけました。

「江別まっことええ」は大学が位置する江別市の社会人を中心に1991年に発足、93年の第2回YOSAKOIソーラン祭りから参加しています。本学が2003年に加わって現在のチーム名となり、地元市民と学生の融合チームとして活動し、ソーラン祭りで準大賞を受賞するなど輝かしい歴史を積み重ねてきました。

YOSAKOIソーラン祭りで 学生たちが演舞

6月の祭りまで時間がない中、チームの全体練習のほか、学生だけの練習も重ねました。

迎えた本番、チーム総勢約60人は6月13日(土)、14日(日)に大通公園など札幌市内の各会場で演舞しました。チーム結成35周年を記念して、今年のテーマは「祝いの唄」。女性陣の衣装の一部にピンクを取り入れるなど華やかな構成で、学生たちは思い切り踊り、旗を振り、大勢の観客にアピールしました。

サークルを引っ張る代表の坪江 慧子さん(医療情報学科2年)もYOSAKOIソーラン祭りは初出場で、「最初の大通での演舞が始まる前、涙が出るほど喜びを感じました」と感激、「もっと学生メンバーを増やしてチームを一層活気づけたい」と張り切っています。

新入生の竹内 彩さん(経営情報学科1年)は地元の江別市出身で、子どものころからチームの活動を見て育ったと言います。「情報大生になったからには、絶対にチームに入ろうと思いました」と話し、「自分がメンバーとして大通で踊っているなんて信じられない気持ちでした。暑くて大変だったけど、仲間と踊れて楽しかったです」と笑顔いっぱいです。

また、成田 紫希さん(情報メディア学科1年)は大きな旗を振る「旗士」の一人を務めました。踊りも含めてYOSAKOIの経験はありませんでしたが、「チームの動画を見て旗を振る姿が『カッコいい』と思ったので挑戦しました」と言います。「演舞後に動画を見て旗を振っていてよかったです」と充実した表情です。

長年チームの代表を務める江別市民の柏木 真紀子さんは「練習期間が短い学生さんもありましたが、よく頑張ってくれました。未来につながる大きな力になりました」と喜んでいました。

チームはソーラン祭り後も江別市内外のイベントで演舞を続けており、新たな仲間を募っています。本学サークルやチームのSNSをご覧ください。



一番街会場(丸井今井前)で、
チームの特徴である提灯を持って
演舞する坪江さん



北海道情報大学
Yosakoiソーラン
サークル
Instagram



江別まっことええ&
北海道情報大学
X(旧Twitter)



腰を入れて
大旗を振る
成田さん

日々の学生生活が
垣間見える投稿が多数

大学内の様々な活動を発信

密着取材やイベントの裏側など
大学の面白い！がたくさん

SNSが パワーアップ

本学では、学生、教員、職員たちが日々様々なフィールドで多種多様な活動を行っています。

これまでも、教員の研究室単位のSNSや本学公式Facebookなどで随時情報発信を行ってきましたが、大学の魅力をさらに発信するため、広報体制が強化されました。専属職員3名が新たに加わり、InstagramとX(旧Twitter)を中心に本学の広くDeepな魅力を伝えるため日々学内外を奔走しています。各自の足で収集した本学のリアルを、4月の発足以来7月末現在までにそれぞれ40本以上、3日に1本のペースで精力的に発信中です。

今後も、学内外での展示会や発表会、国際交流、研究室訪問、はたまた活動の舞台裏などここでしか見られないコンテンツが続く投稿される予定です。ぜひご期待ください。

公式Xアカウント



@johodai_koho

公式Instagramアカウント



johodai_official



学内外問わず連日直接取材



学生からもヒアリング

大学の魅力を発信する 入試広報室 広報課のメンバーたち

この大学は掘れば掘るほど、面白いものが湧き出てくる。底知れない魅力を感じています。日々の取材で私が感じているワクワクや感動が伝わるような発信をしていきたいです。本学で“情報”の多様性、重要性、可能性、そして活用方法を学び、その学びを様々な形で体現している学生たちの姿をしっかりと伝えなければと使命感に燃えています。

はしもと まさひこ
橋本 正彦



取材で学生自身や作品、取り組みに直接触れるたびに「うちの学生ってすごい!」と感じます。そのすごさをたくさんの方に伝えたいですし、学生のリアルが伝わる発信をしたいと思っています。そして、今後の発信をとおして、本学での4年間で、学生たちがどのように成長しているのかも一緒に感じていただければ嬉しいです。

すがわら
菅原 みづき



この大学は、面白いことをたくさんしています。ただ悔しいことに、それがあまり知られていない。本学の面白さを広め、本学のファンを増やすのがこのチームの使命です。SNSの強化はそのための重要な一手であり、ほかにも大学新聞の発行やホームページの更新頻度UPなど、様々なチャネルで発信を強化していきますので、ぜひご期待ください。

こんどう たつひと
近藤 達人



学校法人 電子開発学園 令和7年度決算報告

令和7年度の事業活動における主な収支状況は、学生生徒等納付金等の教育活動収入は49億7百万円となり、予算対比1百万円減となりました。人件費、教育研究経費、管理経費等の教育活動支出は、47億6千8百万円となり、予算対比9百万円増となりました。

受取利息・配当金は9千8百万円となり、予算対比1百万円増となりました。

特別収入は7百万円で予算対比1百万円増、特別支出は1億3千3百万円となり、予算対比8千1百万円増となりました。

基本金組入前当年度収支差額は1億7百万円となり、予算対比9千万円減となりました。

基本金組入額合計は4億8千3百万円で予算対比1億3千3百万円減となり、当年度収支差額は△3億7千6百万円で、予算対比4千2百万円減となりました。



詳細は本学園Webサイトで
ご確認ください。

1. 事業活動収支計算書 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,742,744,000	3,750,977,400	△8,233,400
	手数料	34,792,000	34,460,795	331,205
	寄付金	2,604,000	4,314,053	△1,710,053
	経常費等補助金	711,789,000	721,693,000	△9,904,000
	国庫補助金	546,529,000	544,371,500	2,157,500
	地方公共団体補助金	165,260,000	177,321,500	△12,061,500
	付随事業収入	339,903,000	323,028,861	16,874,139
	雑収入	77,184,000	73,241,207	3,942,793
	教育活動収入計	4,909,016,000	4,907,715,316	1,300,684
事業活動支出の部	人件費	1,948,074,000	1,984,356,895	△36,282,895
	教育研究経費	2,025,113,000	2,024,043,192	1,069,808
	管理経費	761,242,000	731,278,165	29,963,835
	徴収不能額等	24,809,000	29,197,010	△4,388,010
	教育活動支出計	4,759,238,000	4,768,875,262	△9,637,262
教育活動収支差額		149,778,000	138,840,054	10,937,946

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異
事業収入の部	受取利息・配当金	97,572,000	98,952,020	△1,380,020
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	97,572,000	98,952,020	△1,380,020
事業支出の部	借入金等利息	3,511,000	3,510,055	945
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	3,511,000	3,510,055	945
教育活動外収支差額		94,061,000	95,441,965	△1,380,965
経常収支差額		243,839,000	234,282,019	9,556,981
科 目		予 算	決 算	差 異
事業収入の部	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	5,931,000	7,072,314	△1,141,314
	特別収入計	5,931,000	7,072,314	△1,141,314
事業支出の部	資産処分差額	17,456,000	97,819,326	△80,363,326
	その他の特別支出	34,599,000	36,048,039	△1,449,039
	特別支出計	52,055,000	133,867,365	△81,812,365
特別収支差額		△46,124,000	△126,795,051	80,671,051
基本金組入前当年度収支差額		197,715,000	107,486,968	90,228,032
基本金組入額合計		△616,711,000	△483,493,705	△133,217,295
当年度収支差額		△418,996,000	△376,006,737	△42,989,263
前年度繰越収支差額		1,793,656,000	1,793,656,199	△199
翌年度繰越収支差額		1,374,660,000	1,417,649,462	△42,989,462

(参考)

(単位:円)

事業活動収入計	5,012,519,000	5,013,739,650	△1,220,650
事業活動支出計	4,814,804,000	4,906,252,682	△91,448,682

2. 貸借対照表 令和8年3月31日

資産の部 (単位:円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	12,316,396,287	12,307,478,649	8,917,638
有形固定資産	6,690,344,178	6,804,616,109	△114,271,931
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	3,845,813,757	3,988,205,017	△142,391,260
構築物	84,404,378	93,103,201	△8,698,823
教育研究用機器備品	495,059,669	478,915,356	16,144,313
管理用機器備品	45,194,027	50,910,114	△5,716,087
図書	450,085,259	461,986,881	△11,901,622
車両	4,549,939	5,979,391	△1,429,452
建設仮勘定	39,721,000	0	39,721,000
特定資産	1,627,095,915	1,385,237,732	241,858,183
第2号基本金引当特定資産	1,200,000,000	1,000,000,000	200,000,000
退職給与引当特定資産	427,095,915	385,237,732	41,858,183
その他の固定資産	3,998,956,194	4,117,624,808	△118,668,614
ソフトウェア	59,216,794	88,407,494	△29,190,700
有価証券	2,919,970,000	3,000,000,000	△80,030,000
長期預金	1,000,000,000	1,000,000,000	0
その他の固定資産	19,769,400	29,217,314	△9,447,914
流動資産	6,091,895,932	6,105,044,019	△13,148,087
現金預金	5,936,413,780	5,834,560,799	101,852,981
未収入金	105,246,341	220,431,761	△115,185,420
その他の流動資産	50,235,811	50,051,459	184,352
資産の部合計	18,408,292,219	18,412,522,668	△4,230,449

負債の部 (単位:円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	577,969,935	551,923,887	26,046,048
長期借入金	124,980,000	166,640,000	△41,660,000
退職給与引当金	427,023,915	385,271,752	41,752,163
役員退職慰労引当金	25,952,712	0	25,952,712
長期未払金	13,308	12,135	1,173
流動負債	1,463,596,570	1,601,360,035	△137,763,465
短期借入金	41,660,000	41,660,000	0
未払金	433,828,717	597,462,754	△163,634,037
前受金	804,748,393	940,984,434	△136,236,041
預り金	18,135,529	21,252,847	△3,117,318
賞与引当金	165,223,931	0	165,223,931
負債の部合計	2,041,566,505	2,153,283,922	△111,717,417

純資産の部 (単位:円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	14,949,076,252	14,465,582,547	483,493,705
第1号基本金	13,446,076,252	13,162,582,547	283,493,705
第2号基本金	1,200,000,000	1,000,000,000	200,000,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
繰越収支差額	1,417,649,462	1,793,656,199	△376,006,737
翌年度繰越収支差額	1,417,649,462	1,793,656,199	△376,006,737
純資産の部合計	16,366,725,714	16,259,238,746	107,486,968
負債及び純資産の部合計	18,408,292,219	18,412,522,668	△4,230,449

3. 資金収支計算書 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

収入の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,742,744,000	3,750,977,400	△8,233,400
手数料収入	34,792,000	34,460,795	331,205
寄付金収入	3,604,000	5,366,053	△1,762,053
補助金収入	713,359,000	723,263,000	△9,904,000
国庫補助金収入	548,099,000	545,941,500	2,157,500
地方公共団体補助金収入	165,260,000	177,321,500	△12,061,500
資産売却収入	400,000,000	400,000,000	0
付随事業・収益事業収入	339,903,000	323,028,861	16,874,139
受取利息・配当金収入	97,572,000	98,952,020	△1,380,020
雑収入	77,184,000	73,241,744	3,942,256
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	869,428,000	804,748,393	64,679,607
その他の収入	371,841,000	414,100,821	△42,259,821
資金収入調整勘定	△1,075,887,000	△1,070,998,947	△4,888,053
前年度繰越支払資金	5,834,561,000	5,834,560,799	201
収入の部合計	11,409,101,000	11,391,700,939	17,400,061

支出の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,807,419,000	1,785,378,789	22,040,211
教育研究経費支出	1,672,363,000	1,681,392,596	△9,029,596
管理経費支出	714,929,000	685,368,311	29,560,689
借入金等利息支出	3,511,000	3,510,055	945
借入金等返済支出	41,661,000	41,660,000	1,000
施設関係支出	116,720,000	102,064,600	14,655,400
設備関係支出	193,045,000	158,917,864	34,127,136
資産運用支出	637,115,000	642,982,193	△5,867,193
その他の支出	755,211,000	799,380,264	△44,169,264
資金支出調整勘定	△538,440,000	△445,367,513	△93,072,487
翌年度繰越支払資金	6,005,567,000	5,936,413,780	69,153,220
支出の部合計	11,409,101,000	11,391,700,939	17,400,061

4. 活動区分資金収支計算書 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収 入	学生生徒等納付金収入	3,750,977,400
		手数料収入	34,460,795
		特別寄付金収入	3,472,053
		一般寄付金収入	842,000
		経常費等補助金収入	721,693,000
		付随事業収入	323,028,861
		雑収入	73,241,207
		教育活動資金収入計	4,907,715,316
	支 出	人件費支出	1,785,378,789
		教育研究経費支出	1,681,392,596
		管理経費支出	684,388,384
教育活動資金支出計		4,151,159,769	
差引		756,555,547	
調整勘定等		△307,477,625	
教育活動資金収支差額		449,077,922	
		科 目	金 額
施設整備等活動による資金収支	収 入	施設設備寄付金収入	1,052,000
		施設設備補助金収入	1,570,000
		施設整備等活動資金収入計	2,622,000
	支 出	施設関係支出	102,064,600
		設備関係支出	158,917,864
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	200,000,000
		施設整備等活動資金支出計	460,982,464
	差引		△458,360,464
	調整勘定等		92,858,616
	施設整備等活動資金収支差額		△365,501,848
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		83,576,074	

(単位:円)

科 目		金 額	
収 入	有価証券売却収入	400,000,000	
	その他の収入	196,774,898	
	小計	596,774,898	
	受取利息・配当金収入	98,952,020	
	過年度修正収入	537	
	その他の活動資金収入計	695,727,455	
	支 出	借入金等返済支出	41,660,000
		有価証券購入支出	400,000,000
		退職給与引当特定資産繰入支出	42,982,193
		その他の支出	190,009,742
小計		674,651,935	
借入金等利息支出		3,510,055	
過年度修正支出		979,927	
その他の活動資金支出計		679,141,917	
差引	16,585,538		
調整勘定等	1,691,369		
その他の活動資金収支差額	18,276,907		
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）		101,852,981	
前年度繰越支払資金		5,834,560,799	
翌年度繰越支払資金		5,936,413,780	

北海道情報大学教育研究振興募金のお願い

本学では、グローバル人材育成活動、学生支援、教育研究支援、地域連携活動、教育施設・設備整備を遂行する資金確保を目的として「北海道情報大学教育研究振興募金」の募集を行っています。本募金の趣旨にご賛同いただける場合は、ご支援ご協力をお願いいたします。



北海道情報大学教育研究振興募金

検索

江別市ふるさと納税を活用した 市内高等学校及び大学の支援について

令和4年7月27日より、江別市ふるさと納税の寄附先メニューにて「北海道情報大学」を選択して寄附ができるようになりました。納められた寄附金額の一部は、本学の教育環境の充実のために活用されています。



江別市ふるさと納税 情報大

検索

09

2026

18日(金) 後期スタートアップ
プログラム

24日(木) 後期授業開始

10

2026

10日(土)～11日(日) 蒼天祭

12

2026

28日(月)～ 年末年始休業期間

01

2027

～4日(月) 年末年始休業期間

28日(木)～ 春季休業期間

03

2027

19日(金) 学位記授与式

お し ら せ

「ななかまど」バックナンバーは
大学Webサイトでご覧いただけます。

情報大 ななかまど

検索

情報大の最新情報は公式SNSで!
YouTube / Instagram / X / Facebook

情報大 公式SNS

検索



新

任

2026年4月1日付

教

職

員

紹

介

職 員

かなり みずき
神成 水貴 総務課はじめまして!今年度より総務課に配属となりました神成
水貴と申します。昨年度までは、北海道情報大学の通信教育部に所属す
る情報系の学生として、勉学に励んでまいりました。今年度
からは学生時代の経験を活かし、学生の皆様が充実した
学生生活を過ごせるよう、大学運営に努めてまいります。趣味はアウトドアとゲームです。同じ趣味をお持ちの方は
ぜひお声がけください。

編

集

後

記

「変革」や「変化」と聞くと、つい大きな出来事を思い浮か
べてしまうかもしれません。しかし、本学に吹くさまざまな「新
しい風」は、学生や教職員一人ひとりの日々の挑戦や小さ
な積み重ねから生まれているように感じます。大学は、制度や環境だけでなく、そこに集う人々の成長
や新たな挑戦とともに少しずつ歩みを進めています。今号を
通じて、本学の「今」をより身近に感じていただけたらうれし
いです。これからも、変化を続ける本学のさまざまな取り組みや魅
力をお届けしてまいります!

大学広報プロジェクトメンバー

あんぱいたかし おおやま やすなり おだじま けいた
安倍 隆 / 大山 康成 / 小田島 敬太
こんどう たつひと さとう まみこ なかみち だいき
近藤 達人 / 佐藤 真美子 / 中道 大樹
にたとり かづま ひきた みずき
似鳥 克馬 / 疋田 瑞季



北海道情報大学

〒069-8585 北海道江別市西野幌 59-2
TEL: 011-385-4411 (代表)